

1、目標

- ・任務（各々）に対する目標や、保育では発達を学ぶ、子どもと一緒に活動を作り主体的な生活、児の話聞く、保育を楽しむ、夢中になってやる等の目標が上がっていた。また、上半期は新園舎建設に向けての職員の思いがあげられ、上・下半期同様にコロナ禍での園運営(保育・行事)について書かれていた。

2、上半期自己評価

- ・それぞれ実践する中で、学んだことが実践で生かされ子どもと楽しめたと手ごたえを感じている。その反面、子どもへの対応に悩み模索、職員間で相談しあい再度実践、保育の中で子どもの個々の課題が見え、今後の目標とする職員も多かった。子どもの姿から保育の振り返りをする中で、クラスの雰囲気よくなり、子どもを真ん中に保育を楽しんでいることが伺える。
- ・皆の力でできた園舎建設、職員皆で携わり力を注いできた。新園舎での生活は手探りで、1F、2Fと別れ、子どもの姿など把握しにくくなり、これまで以上の職員間の連携（報・連・相）が必要であると多くの職員が感じたようだった。

3、下半期自己評価

- ・コロナ禍で行事や保育の検討を強いられ、職員間で話し、思いを伝えあい考えてきた。こんな中でも出来てよかった！という思い、中止せざるを得なかった辛さ、どうすればよかったのかと考える一年だった。
- ・上半期には課題と感じていたことが子どもたちの運動会以降の成長や自信につながり、保護者と成長の喜びや大切なことを共有・共感できた。失敗だらけだったがここまでできたのは他職員のおかげと心から思う。「失敗は成功のもと」を合言葉にめげずに頑張る。一緒に楽しむことで子どもたちも自然と集まり同じ空間で遊べた等、頑張ったことを実感する。その反面で、子どもを受け止め切れていないと保育向いていないと落ち込む、子どもへの言葉かけや思いを受け止め切れていない、ヒヤリハット・事故報告が多かった等、悩み、振り返りながら保育している様子が見え、次年度につなげていく意欲も感じた。
- ・保護者との関わりでは、保育や子どもの姿を伝える時、一人一人にあった伝え方や関わり、伝える、伝わる難しさを感じ、引き続きの課題と感じている。
- ・専門職では、子どもたちの食べる様子から新しくやってみたことへの手ごたえや新しい機械を使えるようになった、預かりの薬（頓服）を体調不良で預かるようにして把握しやすくなった等、達成感があった。また、事務に時間をとられ子どもや保護者に目を向けることが少なかったので事務を見直していきたいと来年度に見通しを持っている。

4、その他

- ・新園舎建設、本当にお疲れさまでした。みんなの力ってスゴイ！！
- ・全職員が集まる場で、“つくしらしさ”が共有できるテーマの話し合いができるといい。
- ・若い人向けに記録の書き方、こどもの捉え方の研修を行うといい。(資料ではなく動画をみてポイントが分かるような)
- ・仕方がない面もあるが、事務保障が少なくどの職員も持ち帰りが多く大変。
- ・体調不良の看護師の仕事の範囲、どんなことを求められているのか、わからず模索中。
- ・「ケ」の食事として、日々つみあげていくものの一つとして安心できる味を目指したい。
- ・仕事と私生活の堺を付ける、物忘れが多い、職員の話に耳を傾けているか、うまく力を抜く(リフレッシュ)、体力低下気味等、身体についての辛さが出ていた(40代以上)。
- ・家庭と仕事の両立に大変さを感じる。
- ・感謝の気持ち 思いやりのある言葉かけを大切に